

## 京都府立高等学校図書館協議会司書部会における レファレンス協同データベースの活用について（報告）

京都府立洛北高等学校 学校図書館司書 仲 明彦

京都府立高等学校図書館協議会司書部会（以下、司書部会）は、京都府立の全日制高校 47 校、全日制分校 3 校、京都市内定時制課程 4 校、盲学校高等部 1 校に配置されている学校図書館司書（以下、司書）55 名によって構成されている。全体で集まる総会、夏期研修会、研究大会、地域毎のブロック会議を軸に、学校図書館司書の専門的資質の向上をめざして研修を重ねている。

### 1. レファレンス協同データベース導入前の状況、取組み

生徒・教職員の資料要求に応えるため、また広い意味で生徒の情報リテラシーの涵養に資するため、私たちはレファレンスサービスを非常に重要な学校図書館の機能であると考えている。

司書部会では、毎年全体の研究テーマを設定しそれに基づいて研究を深めている。この 10 年の間には、まず 1997 年度から 1999 年度に「レファレンス事例研究」として研究に取り組んでいる。この際には、司書部会統一様式でレファレンス事例を収集、各校の事例を件名索引つきで「レファレンス事例集」として冊子体でまとめた。

その後、インターネットの急速な普及に伴い、従来の図書資料に加えて、インターネットを利用した場合のレファレンス解決の道筋を研究し、より幅広くレファレンスに対応する力を身につけるという目的で、2006 年度～2007 年度に「レファレンス研究」に取り組んだ。2006 年度は、Excel を利用し電子メール送信によりレファレンス事例の収集を行い、プリント形式で一覧にした事例集を作成した。2007 年度は前年同様にレファレンス事例集の作成とともに、前年度積み残した未解決レファレンスの検討、「これがお薦め！レファレンスブック」「これがお薦め！レファレンスに役立つサイト」「これがお薦め！レファレンス研修に役立つ本」のリスト作成を行った。

また、各ブロック会議においてもレファレンス事例交流が行われ、緊急を要する未解決レファレンスについては司書同士のメーリングリスト（個人が運営されているが、司書の 8 割程度が参加している）を通じて相互にアドバイスし合っている。

このような取組を通じて、レファレンスサービスに対する意識が向上したこと、またレファレンス解決への多様なプロセスやツール・情報源を共有できたことは大きな成果であったと考えている。2005 年の第 14 回京都図書館大会に桂高校司書・藤谷千尋氏、2007 年の第 16 回同大会に山城高校司書（当時、現京都府立図書館）・堀奈津子氏が、それぞれレファレンスサービスに関連して報告されたことが、一つの到達点であると位置づけられる。

しかし、事例集作成に当たっては担当者に過大な負担となったこと、リアルタイムに情報を共有し活用するためには、データをネットワーク上に置いた方が有用ではないかなどの課題もあった。また広義ではレファレンスサービスに含まれると思うが、近年各校でパスファインダーの作成が活発に取組まれている。これらも可能ならばパスファインダーバンクのような形で

共有できないかという問題意識もあった。

このようなレファレンス研究の蓄積と課題の上に、レファレンス協同データベース事業（以下、レファ協）への実験参加となるが、そこに至るまでには「出会いの運」という要素も非常に強い。司書部会とレファ協との実質的な関わりは、先に触れた第 15 回京都図書館大会の席上、報告者の堀氏が「学校図書館としてレファ協への参加が可能か？」を問われたことに始まる。堀氏はレファレンスサービスへの造詣も深く、かねてよりレファ協にも注目されておられたようだ。「参加規格外なので現状では無理」ということが当初の回答のようであったが、昨年度末に実験参加ということで堀氏に打診があった。司書部会の役員会では、堀氏からレファ協への実験参加という提案を受け、それまでの研究を発展させる形で相互にスキルアップを図れる点、また課題のいくつかもレファ協参加により一定解消できる点を踏まえ、2008 年度の総会に提案することを決定した。総会では会員の承認を得、本年度からの実験参加に至った。

## 2. 司書部会全体での取組みに至るまで

5 月から 7 月までの間、まず司書部会役員 8 名の間で試行した。取組んだことは事例検索、事例登録、コメント機能活用程度ではあったか、試行を通して 8 月の夏期研修会において全体に打ち出す取組み内容や、司書部会としてのルール作りを検討した。

レファ協には多くの有効な機能があることは十分認識したが、全員がその機能を使いこなすことには個人差が出るだろうと考えた。そこで司書部会全員が共通して取組むこととして、事例検索は勿論のこととして、①事例登録、②コメント機能を活用しての未解決レファレンスの交流、③調べ方マニュアルへの登録の 3 点を考えた。また当面の卑近な目標として、各自がとりあえず 1 件レファレンス事例を登録し、レファ協画面や作業に慣れてみるということを設定した。また、ログイン、事例の新規登録、コメント参照に、若干の発展編を加えた、初めてレファ協画面と向きあう方を想定した府立高校版「基本操作簡易マニュアル」も作成した。

夏期研修会当日は、レファ協事務局より大貫、小篠両氏がレファ協の概要と活用法について説明くださり、それを受けて役員から司書部会としての取組みの説明と、「基本操作簡易マニュアル」の解説を行った。研修会後に回収した参加者アンケート（回収 40 枚）では、積極的に参加・利用していきたい 12 名、できるだけ参加・利用していきたい 25 名、参加・利用することに困難を感じた 1 名、その他 2 名ということだった。

## 3 司書部会としての運用ルールについて

今回の司書部会のレファ協参加は、司書の配置されている 55 校を一つのグループとして、それを 1 館とする形での参加である。現時点では「自館のみ参照」で事例を登録している。

勿論のことだが司書は普段別々の学校に勤務しているので、レファ協に参加するにあたっては、最低限のルールをお互いによく確認しておく必要がある。レファ協全体のガイドラインを尊重するのは当たり前のことだが、公開レベルが「自館のみ参照」なので、司書部会以外的事例にコメントは付けない、掲示板に書き込みをしないという 2 点を特に強調している。また、これも当たり前のことだが他校の事例・コメントを勝手に削除・変更しない、事例登録時の管理番号、コメント・回答付与時の記名方法など、司書部会内のルールも設定している。グルー

プとして参加する場合、もう少し細かいグループ内のルールも必要なのかもしれないが、全員で確認できることには限界もあるだろうと考え、現時点では大原則の確認のみにとどめている。また、コメント通知メールは役員内のレファ協担当者へ届き、そこから一括して全校に配信するという方式をとっている。

学校図書館ではレファレンス自体の絶対数も少なく、所謂「クイックレファレンス」と呼ばれるものがその中でも大半を占めるのが現状だが、そのような事例も含め、無理のない範囲で出来る限り事例登録を行っていくことも申し合わせている。

#### 4 レファ協活用例と感想

1 月 5 日現在、司書部会としての事例登録は 17 校 52 件である。調べ方マニュアルには、「これがお薦め！レファレンスブック」「お薦め！レファレンスに役立つサイト」「これがお薦め！レファレンス研修に役立つ本」の 3 件を登録している。また今年度テーマ毎の資料リスト作成に取り組まれているブロックには、それを調べ方マニュアルに登録していただくよう依頼している。

さて、レファ協活用例と感想だが、本来司書全員を対象にアンケートなどを実施し、総括した事柄を記すべきだと考えている。しかし、全体で取り組みをはじめて半年足らずでもあり、アンケートなどはまだ実施できていないので、現時点では全体の活用例や感想を把握するには至っていない。以下の事例と感想は、報告者の個人的なものであることをご了解願いたい。

私はレファレンスがあると、まずレファ協で検索してみることにしている。検索して直接回答に至った例として、「エンバーミングについての資料」を問われた際に、福島県立図書館・登録番号 1000026989 の事例が、また「映画マイ・フェア・レディーの原作」を問われた際に、埼玉県立久喜図書館・登録番号 1000034102 の事例がヒットした例がある。

しかし、最も有効に活用できたのは、レファレンスの情報源や選書ツールとしての利用ではないかと思う。本校図書館では昨年 9 月に、3 年普通科体育系の国語表現の講座において、ディベートに関わる調べ学習が行われた。論題の一つとして「死刑制度は廃止すべきか」というものがあり、資料を揃えるための参考としてレファ協でも検索を行った。その際は岐阜県図書館・登録番号 1000045921 他多くの事例に記されている参考資料が非常に役立つとともに、生徒からこのような質問があるのではないかという想定もできた。また本校教員より、関孝和の「傍書法」に関わるレファレンスが寄せられた際には、詳細は割愛するが、埼玉県立久喜図書館・登録番号 1000019409 の事例に記された、「全国和算研究会一覧表」の URL をもとに関係機関に問い合わせを行い、解決に至った例もある。未解決レファレンスについては、従来も司書同士のメーリングリストで交流を行ってきたが、レファ協のコメント機能を利用すると、記録を共有できるというメリットも実感した。

また、本校では 7 月に教職員研修の一環として、「ネットで使おう！国立国会図書館+α」というテーマで図書館から少し話をする機会があった。その際にレファ協事業を紹介したところ、非常に興味を示された教員もあった。この時点では司書部会の実験参加の話はしていないが、今後このような機会を通じて教職員に図書館の機能や、府立高校図書館の活動について PR していくことも可能ではないかと考えている。

総じて私の感想を述べれば、レファ協は非常に有用で、是非気楽に、無理なく、末永く活用・参加していきたいということである。次年度は司書部会全体の活用例と感想を総括したい。

## 5 学校図書館、グループとしての参加の課題点

学校図書館として参加することについては大きな問題を感じない。但し京都府立高校の司書は、基本的に専任・専門・正規の職員であるが、全ての都道府県の公立学校において、学校図書館職員がそのような勤務条件となっているわけではない。学校図書館がグループとして参加するには、職員がある程度安定した勤務条件であることも大切な要素であると考えられる。

グループとして参加する場合最も難しいことは、全体の意識、取組み、ルール、スキルを、どの辺りまで統一したものにするかということだと思う。京都府立高校の司書は一人職種で、普段は別々の職場に勤務しているため、日常的にそれらのことをやり取りできるわけではない。また、毎年人事異動もあり、新規の方も任用されていくが、どのようにレファ協について引き継いでいくかも一つの大きな課題だろう。また毎年担当者・役員も入れ替わっていくが、その引き継ぎも課題の一つである。

## 6 今後の活用予定と展望

司書部会としての今後の活用予定と展望だが、第一に事例登録をもう少し増やしたいということである。1月5日現在17校からの登録があるが、全体の3分の1弱でしかない。他館種と比較してレファレンスが少ないのは確かだが、まだ登録されていない事例があると思うので、積極的な登録を呼びかけていきたい。また、2006～2007年度に収集した事例も、可能ならばレファ協に登録したいと考えている。

第二に、事例登録以外での活用事例について情報共有を図るとのことだ。事例登録ばかりを呼びかけると、どうしても負担に感じる方もおられると思う。しかし、レファ協の活用方法はレファレンスの情報源として、選書ツールとしてなど幅広いものがある。是非そのような形での活用方法を積極的にアピールしていきたい。今回の活用例は報告者の事例のみだが、司書部会内でも他に様々な形でレファ協が活用されていると思う。それらの活用事例を収集し、全体で共有していきたいと考えている。一日一回とりあえず自分宛の電子メールをチェックするという方は多いと思うが、同様に一日一回とりあえずレファ協画面をチェックしてみるという気楽な感覚が、司書部会内に広がれば良いなあと感じている。

第三に、調べ方マニュアルの活用である。各校・各ブロックにおいて、「文化祭企画に役立つ本・サイト」などのようなテーマ別の資料リストや、授業支援を目的としたパスファインダーなどを作成されている。それらを少し加工して、是非とも「調べ方マニュアル」に登録して、情報共有を図っていきたい。

第四には、これはあくまで報告者の個人的な思いであり司書部会としての見解ではないが、出来れば事例を「参加館登録」としていきたい。公立学校ということから事例を「一般公開」とすることは難しいと考えている。しかし、司書部会の事例が他の参加館にどれだけ寄与できるか甚だ心許ないものの、やはり参加を継続する限りは「相利共生」の立場でいたいと願っている。

## 7 最後に

「レファレンス協同データベースを使う！」<sup>1</sup>の中で、「検索して回答そのものをズバリ見つけ出すには、まだちょっと使えない。そういった使い方ができるようにするには、まだまだデータ数を増やしていかなければいけないといった状況」と述べられているが、私も図書館職員として利用する立場で言えば同様に感じる。この課題はどれだけ事例を収集しても、永遠につきまとう課題ではないかとも思う。だからこそ全ての館種が協同し合って、「多くの図書館の事例を共有することで、データベース全体を良く」（「あうる」No.83,P21,編集・発行 NPO 図書館の学校）していくことが大切なのであろう。全館種で「集合知」を構築し、共有し、それを（生徒・教職員も含めて）一般に提供していくというレファ協に、司書部会としても是非積極的に協同・参画していきたいと考えている。

終わりにあたって、実験参加に際してレファ協事務局の藤河・大貫・小篠各氏に多大なご尽力を賜ったことに対して心より感謝申し上げたい。

---

<sup>1</sup> 2007 年度第 55 回大阪公共図書館大会（2008 年 1 月 31 日、大阪市中央公会堂） 「レファレンス協同データベースを使う！」（国立国会図書館関西館 藤河正憲）

※『大阪公共図書館大会記録集』2008.3 大阪公共図書館協会